報道発表資料

平成 19 年 9 月 7 日 気 象 庁

平成19年8月の地震活動及び火山活動について

[地震活動]

8月18日に九十九里浜付近〔千葉県東方沖〕でM4.8の地震が発生し、千葉県一宮町で震度5弱を観測しました。この付近では8月13日頃から地震活動が活発化しました。国土地理院のGPS観測によると、この地震活動と同期してプレート間のゆっくりすべりが原因と見られる地殻変動が房総半島南東部で観測されました。

8月16日にペルー沿岸でM7.9の地震が発生し、この地震により太 平洋沿岸と伊豆・小笠原諸島で津波を観測しました。

7月16日に発生した「平成19年(2007年)新潟県中越沖地震」の 余震活動は減衰してきています。

全国で震度1以上を観測した地震の回数は170回(新潟県中越沖地震の余震活動19回、九十九里浜付近の地震活動28回を含む)、日本及び その周辺におけるM4以上の地震の回数は125回(九十九里浜付近の地 震活動15回を含む)でした。

震度3以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙1のとおりです。また、 世界の主な地震は別紙2のとおりです。

[火山活動]

噴火したのは、桜島及び諏訪之瀬島でした。

桜島では、4日に南岳山頂火口で爆発的噴火が発生しました。

諏訪之瀬島では、31日に小規模な噴火が発生しました。

三宅島では、多量の火山ガスの放出が続いています。

樽前山、硫黄島、薩摩硫黄島及び口永良部島では、火山活動のやや活 発な状態が続いています。

日本の主な火山活動の概況は別紙3のとおりです。また、世界の主な火山活動は 別紙4のとおりです。

注1:国土地理院の GPS による地殻変動観測については、国土地理院ホームページの記者発表 資料「平成19年7月~8月の地殻変動について」を参照ください。

http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/2007/goudou0907.htm

- 注2: 気象庁の地震活動資料には、防災科学技術研究所や大学等関係機関のデータも使われて います。
- 注3:地震活動および火山活動の詳細については、地震・火山月報(防災編)2007 年8月号(2007 年9月末頃に刊行及び気象庁ホームページ掲載予定)をご覧下さい。
- 注4:平成19年9月の地震活動及び火山活動については、平成19年10月9日に発表の予定で す。

別紙 1

2007年8月の主な地震活動^{注1)}

番号	月	日	時分	震央地名 ^{注2)}	深さ (km)	М	最大 震度	備考 / コメント
1	8 月	1日	0時07分	沖縄本島北西沖	6	6.1	3	沖縄トラフ沿いで発生した地震
2	8月	2日	11時37分	サハリン西方沖 〔サハリン南部付近〕	0	6.4	2	
3	8 月	2 日	14時22分	サハリン西方沖	27	5.9	3	No.2の余震
4	8 月	7日	9時02分	沖縄本島北西沖	5	6.3	3	沖縄トラフ沿いで発生した地震
5	8 月	9日	0時19分	沖永良部島付近 〔沖縄本島近海 〕	44	5.1	4	フィリピン海プレートの沈む込みに伴い発生した 地震
	8月	16日	4時15分		31	5.3	4	フィリピン海プレートと陸のプレートの境界付近
6	8月	18日	4時14分	九十九里浜付近	23	4.8	5弱	で発生した地震 9月13日頃~19日にかけてまとまった活動
0	8月	18日	13時36分	〔千葉県東方沖〕	24	4.5	4	被害:16日4時15分の地震で負傷者1人(軽傷)
	8月	18日	16時55分		20	5.2	4	18日4時14分の地震で負傷者1人(軽傷)
7	8月	22 日	16時26分	渡島支庁東部	122	5.4	3	太平洋プレート内部で発生した地震
8	8月	26日	14時31分	北海道東方沖	49	5.4	3	太平洋プレートの沈み込みに伴い発生した地震

注1)「主な地震活動」とは、 震度4以上の地震、 M6.0以上の地震、 陸域でM4.5以上かつ震度3以上の地震、 海域でM5.0以上かつ震度3以上の地震、 前に取り上げた地震活動で活動が継続しているもの、 その他、注 目すべき活動。

注2)〔〕内の震央地名は、気象庁が地震情報等で使用した震央地名。

・地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果

2007 年 9 月 1 日に気象庁において第 255 回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ 会(定例会)を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」と して次のコメントを発表しました。その後も地震・地殻活動等の状況に変化はありま せん。

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

全般的には顕著な地震活動はありません。静岡県中部ではプレート内で通常より活動 レベルが低く、地殻内ではやや高い状態になっていますが、その他の地域では概ね平常 レベルです。

東海地域及びその周辺の地殻変動には注目すべき特別な変化は観測されていません。

本資料中のデータについて

気象庁では、平成9年11月10日より、国・地方公共団体及び住民が一体となった緊急防災対応の迅速かつ円滑な実施に資するため、気象庁の震度計の観測データに合わせて地方公共団体及び 独立行政法人防災科学技術研究所・から提供されたものも震度情報として発表している。

また、気象庁では、地震防災対策特別措置法の趣旨に沿って、平成9年10月1日より、大学や 独立行政法人防災科学技術研究所等の関係機関から地震観測データの提供を受け、、文部科学省 と協力してこれを整理し、整理結果等を、同法に基づいて設置された地震調査研究推進本部地震 調査委員会に提供するとともに、気象業務の一環として防災情報として適宜発表する等活用して いる。

なお、地震・火山観測データの整理結果については、「地震・火山月報(カタログ編)」に掲載 している。

- 注^{*}秋田県、埼玉県、新潟県、愛知県、大阪府、奈良県、和歌山県、岡山県、山口県、横浜市(神奈川県)(以上1府8 県、1政令指定都市は平成9年11月10日から発表)群馬県、福井県、静岡県、三重県、島根県及び愛媛県(以上6 県は平成10年6月15日から発表)青森県、山形県、茨城県、石川県、京都府、兵庫県、島取県、広島県、徳島県、 熊本県、宮崎県及び鹿児島県(以上1府11県は平成10年10月15日から発表)東京都、長野県(以上1都1県は平成 11年7月21日から発表)栃木県、千葉県、岐阜県、名古屋市(愛知県)(以上3県、1政令指定都市は平成12年1 月12日から発表)滋賀県(平成12年3月28日から発表)富山県、香川県、大分県(以上3県は平成12年7月18日 から発表)佐賀県(平成13年3月22日から発表)山梨県、川崎市(神奈川県)(以上1県、1政令指定都市は平成 13年5月10日から発表)高知県(平成13年7月19日から発表)福島県(平成13年12月12日から発表)北海道、長 北海棠、神奈川県、福岡県、仙台市(宮城県)(以上4県、1政令指定都市は平成14年3月20日から発表)北海道、長 崎県(以上1道1県、平成14年7月29日から発表)沖縄県(平成15年3月10日から発表)の47都道府県、4政令指 定都市と独立行政法人防災科学技術研究所(平成16年5月26日から発表)。
- 注**平成19年8月末現在:独立行政法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、気象庁、独立行政法人産業技術総合研究所、国土地理院、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所、横浜市及び独立行政法人海洋研究開発機構による地震観測データを利用している。また、富山・石川・岐阜・長野県を中心とする総合観測として、歪集中帯大学合同地震観測グループ(北海道大学・弘前大学・東北大学・千葉大学・東京大学地震研究所・名古屋大学・京都大学防災研究所・金沢大学・福井工業高・九州大学・鹿児島大学)が行っている自然地震観測のデータを利用している。また、能登半島地震合同観測グループ(東京大学地震研究所、北海道大学、東北大学、名古屋大学、金沢大学、京都大学防災研究所、九州大学、鹿児島大学、防災科学技術研究所、産業技術総合研究所)が行っている自然地震観測のデータを利用している。このほか、2007年新潟県中越沖地震緊急観測グループのデータを利用している。

気象庁作成



8月2日にサハリン西方沖〔サハリン南部付近〕でM6.4の地震(国内最大震度2)が発生した。

沖縄本島北西沖で、8月1日と7日にそれぞれ M6.1、M6.3の地震(共に最大震度3)が発生した。

北海道地方

2007/08/01 00:00 ~ 2007/08/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- a)8月2日にサハリン西方沖〔サハリン南部付近〕でM6.4(国内最大震度2) M5.9(国 内最大震度3)などの地震があった。
- b)8月26日に北海道東方沖でM5.4(最大震度3)の地震があった。
- c)8月22日に渡島支庁東部でM5.4(最大震度3)の地震があった。

〔 〕内は気象庁が情報発表に用いた震央地域名

[上述の地震は M6.0以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0以上かつ最大震度 3 以上のいずれ かに該当する地震。]

8月2日 サハリン西方沖〔サハリン南部付近〕の地震



気象庁作成

8月2日13時ころに北海道で観測された潮位変動

2007 年 8 月 2 日 11 時 37 分(日本時間)にサハリン西方沖〔サハリン南部付近〕で M6.4 の地震が発 生した。この地震に対して津波予報データベースを検索したところ、わが国に対しては極めて微弱な津 波しか予測されなかったことから 11 時 45 分に「津波の心配なし」の旨の地震情報を発表した。その後、 13 時過ぎから北海道の留萌と稚内などで潮位変動が大きくなり始めたことから、津波発生の可能性があ ると判断し、13 時 37 分に北海道日本海沿岸北部に津波注意報を発表した(14 時 26 分解除)。検潮所で 観測した波形を図 1 に示す。留萌や稚内での高さは 0.2m程度であった。なお、震源近傍のサハリン南 部で10.1~0.2mの程度の津波が観測されている(米国海洋大気庁による)。

この潮位変動について調査を行った結果はつぎのとおりである。

気象庁で決定した地震の規模は、世界の主な観測・研究機関で決定したものと比較しても妥当で あり、今回の地震は規模の割に津波を起こしやすいタイプの地震ではなく通常の地震であったと 考えられる

詳細な津波シミュレーションの結果でも、北海道沿岸で2~3cm 程度の高さしか予測されず、観測した潮位変動の周期もシミュレーション結果より明瞭に長かった。また検潮所によっては、潮位が大きくなり始めた時間と津波の到達予想時刻がずれており、特に留萌で潮位変動が大きくなり始めた時刻が津波の到達予想時刻よりも30分程度早かった(図2)。

この時間に停滞前線南側に発生した気象擾乱が北海道西部の沿岸部を通過したとみられ、各検潮 所での潮位変動の振幅が大きくなり始めた時刻が、大局的にはこの擾乱が通過した時刻と合致し ている(図3)。また、留萌では気圧や風向風速の急変と潮位変動が大きくなった時刻がほぼ一致 しており、潮位変動の周期も過去の副振動の周期と一致している(図4)。

以上のことから留萌の潮位変動については、気象の状況や過去の副振動の事例との類似性から判断して、気象擾乱によって励起された副振動によるものと考えられる。その他の検潮所についても、気象擾乱の通過に伴い発生した可能性が高いと考えられる。なお、潮位変動のごく一部には津波が寄与している可能性もある。



*1 は海上保安庁、*2 は国土交通省北海道開発局の所属であることを示す。







衛星・レーダー合成図 図38月2日13時のレーダー画像と検潮記録 はサハリン西方沖の地殻変動領域(M6.4相当)から推定される津波到達予想時刻を示す。 なお、留萌と江差は国土交通省北海道開発局の検潮所である。



今回の潮位変動: 全振幅56cm 周期24分

過去の副振動: 周期22~24分 (過去10年間の全振幅50cm以上 の6事例)







2007年8月22日16時26分に渡島支庁東部 の深さ122kmでM5.4(最大震度3)の地震が 発生した。この地震は太平洋プレート内部(二 重地震面の上面)で発生した地震である。

この地震の発震機構は北北西 - 南南東方向 に圧力軸を持つ型である。今回の地震の震源 付近では 1992 年 8 月 24 日に M6.1 (最大震度 4)が発生しており、今回の地震の発震機構 と似ている。

1997 年 10 月以降の活動を見ると、今回の地 震の震源付近では2003年3月9日にM4.5(最 大震度1)が発生している(A)。

領域 b 内の地震活動経過図、回数積算図



1923 年8月以降の活動を見ると、今回の地 震の震源付近ではM5を超える地震が時折発 生しており、1945 年 4 月 10 日には M6.3、1992 年8月24日にM6.1(ともに最大震度4)の地 震などM6を超える地震も2回発生している (**B**),



領域 c 内の地震活動経過図



気象庁作成

東北地方

2007/08/01 00:00 ~ 2007/08/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

[[]上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれ かに該当する地震。]

関東・中部地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

a)8月13日から九十九里浜付近[千葉県東方沖]でまとまった活動があり、16日にM5.3 (最大震度4)18日にM4.8(最大震度5弱)M5.2(最大震度4)などの地震があった。

〔 〕内は気象庁が情報発表に用いた震央地域名

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれ かに該当する地震。]



震央分布図(2002年1月以降、M 1.0、深さ0~80km) 2007年8月1日以降を濃く表示

2007 年 8 月 16 日 4 時 15 分に九十九里浜付近の深 さ 31km で M5.3 の地震があり最大震度 4 を、また 18 日 4 時 14 分にも M4.8 の地震があり最大震度 5 弱を 観測するなど、この領域では 13 日以降、数日間にわ たって、やや活発な地震活動が続いた。発震機構は 概ね北北西 - 南南東方向に圧力軸をもつ逆断層型 で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界付 近で発生した地震と考えられる。

なお、国土地理院の GPS 観測網や、防災科研の傾 斜観測などで、この地震活動と同期するスロースリ ップが捉えられている。



領域 c 内の時空間分	市図
(2007 年 8 月 12 日以降、	東西投影)



九十九里浜付近〔千葉県東方沖〕の地震(過去の活動)

九十九里浜付近では、M4~M5 程度の地震が頻発する活動を、数年おきに繰り返してきている。



気象庁作成

2007年8月の九十九里浜付近〔千葉県東方沖〕の地震活動と 周辺の体積歪計の変化状況



地殻体積歪変化及び地震活動経過(2007年8月1日~8月30日)

歪変化は各地点とも 8月1日から8月11日 の期間のトレンドで 補正をしている。

MICAP-GIによる体積歪計の変化傾向の計算結果



防災科学技術研究所が推定した断層モデルから体積歪計の変化傾向を計算した結果。 赤の領域が伸び、青の領域が縮みを示す。

平成19年(2007年)新潟県中越沖地震の余震活動

平成 19年(2007年)新潟県中越沖地震(M6.8)の余震活動は減衰してきている。8月中の最 大の地震は、3日11時01分に発生したM4.1(最大震度2)の地震である。また、6日14時 53分に発生したM3.5の地震では、新潟県柏崎市で震度3を観測している。





2007/08/01 00:00 ~ 2007/08/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

[[]上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれ かに該当する地震。]





特に目立った活動はなかった。

[[]上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれ かに該当する地震。]

沖縄地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- a)8月9日に沖永良部島付近〔沖縄本島近海〕でM5.1(最大震度4)の地震があった。
- b)8月1日と7日に沖縄本島北西沖で、それぞれ M6.1 および M6.3(共に最大震度3)の地震があった。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれ かに該当する地震。]

8月1日、7日 沖縄本島北西沖の地震



震央分布図(1980年1月以降、M 5.5、M6.0以上を濃い で表示)



気象庁作成

8月9日 沖永良部島付近〔沖縄本島近海〕の地震

震央分布図(1997年10月以降、M 3.0、今年1月以降を濃く表示)



2007年8月9日00時19分 に沖永良部島付近〔沖縄本島 近海]の深さ44kmでM5.1(最 大震度4)の地震が発生した。 余震活動は活発ではなかっ た。

発震機構は西北西 - 東南東 方向に圧力軸を持つ逆断層型 で、フィリピン海プレートの 沈み込みに伴う地震である。

沖縄本島およびその周辺で は、M5 程度の地震が時々発生 している。



1997 10 01 00:00 -- 2007 09 02 24:00



震央分布図(1980年1月以降、M 5.0)

1980 01 01 00:00 -- 2007 09 02 24:00 100km N=215 õ 0 か発生していない、。 00 28* м 領域 c 内の地震活動経過図 88 0 2 2007年4月21日 26" 6 M5.7 00 2007年8月9日 M5.1 7.0 6.0 0.0 今回の地 (km 1990 1995 2005 1985 2000 130°E 128*6

1980年以降の活動をみると、周辺では M6 クラスの地震も時々発生しているが、 今回の地震の震央近傍では M5 クラスし

東海地震の想定震源域及びその周辺の地震活動

[概況]

31日に静岡県西部のフィリピン海プレート内で M4.3(最大震度3)の地震が発生した。

[地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果]

9月1日に気象庁において第255回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会(定例会)を開催し、 気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを発表した(図4と図5)。

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

全般的には顕著な地震活動はありません。静岡県中部ではプレート内で通常より活動レベルが低く、 地殻内ではやや高い状態になっていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。

東海地域及びその周辺の地殻変動には注目すべき特別な変化は観測されていません。



図1 震央分布図(2007年8月1日~31日:深さ90km以浅、Mすべて。M3.0以上の地震に「日、深さ、M」 を付けた。すぐ下の図はP波初動による発震機構(下半球投影)。図中のナス型の領域は東海地震の想定震源 域。)

11日15時28分、京都府南部の深さ13kmで M3.4の地震があり、最大震度1を観測した。 同日16時17分にも同じ場所でM3.3の地震が あり、同じく最大震度1を観測した。発震機 構はともに東西方向に圧力軸を持つ型(前者 は横ずれ成分を含む逆断層型、後者は横ずれ 断層型)で,陸域の地殻内で発生した地震で ある。

17 日 17 時 41 分、静岡県西部の深さ 40km で M3.0 の地震が発生した。発震機構は東西方向 に張力軸を持つ横ずれ断層型で、フィリピン 海プレート内で発生した地震である。 19日10時21分、三宅島近海の深さ23kmで M4.0の地震があり、最大震度1を観測した。 20日03時32分、浜名湖付近[静岡県西部、 遠州灘]の深さ31kmでM3.2の地震があり、最 大震度1を観測した。発震機構は東西方向に 張力軸を持つ正断層型で,フィリピン海プレ ート内で発生した地震である。

21日23時59分、和歌山県南方沖の深さ41km でM3.7の地震が発生した。

23日08時52分、岐阜県美濃東部の深さ51km でM3.3の地震があり、最大震度1を観測した。 発震機構は東北東-西南西に張力軸を持つ型 (横ずれ成分を含む正断層型)で、フィリピン海プレート内で発生した地震である。 31日10時51分、静岡県西部の深さ34kmで M4.3の地震があり、最大震度3を観測した。 発震機構は東西方向に張力軸を持つ横ずれ断 層型で,フィリピン海プレート内で発生した 地震である。

注:本文中の番号は、図1中の数字に対応する。

[東海地域の地震活動の頁で使われる用語]

・「想定震源域」(図1)と「固着域」(図4)

東海地震発生時には、「固着域」(プレート間が強く「くっついている」と考えられている領域)あるいはその周辺の一部からゆっく りしたずれ(前兆すべり)が始まり、最終的には「想定震源域」全体が破壊すると考えられている。

・「クラスタ除去」(図4と図5)

地震は時間空間的に群(クラスタ: cluster)をなして起きることが多くある。「本震とその後に起きる余震」、「群発地震」などが典型的な群(クラスタ)で、余震活動等の影響を取り除いて地震活動全体の推移を見ることを「クラスタ除去」と言う。震央距離が3km以内、発生時間差が7日以内の地震をクラスタと見なし、最大地震で代表させている。

大規模な地震から国民の生命・財産を保護することを目的として、昭和53年(1978年)12月に施行された「大規模地震対策特別措置法」では、大規模な地震の発生のおそれがあり、その地震によって大きな被害が予想されるような地域をあらかじめ「地震防災対策強化地域(以下、「強化地域」という。)として指定し、地震予知のための観測施設の整備を強化し、あらかじめ地震防災に関する計画をたてる等、各種の措置を講じることとしている。強化地域は平成14年(2002年)4月に見直しが行われ、現在、静岡県全域と東京都、神奈川・山梨・長野・岐阜・愛知及び三重の各県にまたがる173市町村(平成19年4月現在)が強化地域に指定されている。強化地域では、マグニチュード8クラスと想定されている大地震(東海地震)が起こった場合、震度6弱以上(一部地域では震度5強程度) になり、沿岸では大津波の来襲が予想されている。気象庁では東海地震の直前の前兆現象を捕らえるため、地震、地殻変動等の観測データを常時監視している。

8月20日 浜名湖付近〔静岡県西部〕の地震



図2 浜名湖付近[静岡県西部]の地震

8月31日 静岡県西部の地震



東海地域の地震活動指数

(クラスタを除いた地震回数による)

2007年8月28日 現在

	日初	〕 着域	(愛)	2) 印県		④ 駿河湾		
	地热力	フィリ	地态内	フィリ	フィリ	会ば		
	地成内	ビン海 ブレート	电波内	ピン海 プレート	西側	全域	東側	王敬
短期活動指数	8	6	7	2	3	5	6	2
短期地震回数 (平均)	13 (6.31)	9 (5.90)	19 (13.23)	8 (14.08)	1 (2.46)	7 (5.91)	6 (3.45)	2 (6.06)
中期活動指数	8	6	7	4	1	4	5	1
中期地震回数 (平均)	31 (18.93)	22 (17.69)	51 (39.68)	43 (42.24)	1 (4.93)	10 (11.82)	9 (6.90)	5 (12.12)

*Mしきい値:

M≥1.1: 固着域、愛知県、浜名湖、M≥1.4: 駿河湾

*クラスタ除去:

震央距離がΔr以内、発生時間差がΔt以内の地震をグループ化し、最大地震で代表させる。 Δr=3km、Δt=7日:固着域、愛知県、浜名湖

Δr=10km、Δt=10日:駿河湾

* 対象期間:

短期:30日間(固着域、愛知県)、90日間(浜名湖、駿河湾) 中期:90日間(固着域、愛知県)、180日間(浜名湖、駿河湾)

*基準期間:

1997年-2001年(5年間):固着域、愛知県、1998年-2000年(3年間):浜名湖 1991年-2000年(10年間):駿河湾



図4 東海地域の地震活動指数

浜名湖は活動指数の低い状態が継続していたが、先月ごろから東側のみ回復傾向である(今期はほぼ平 常の6~5)。固着域の地殻内は活動指数が高い。それ以外の地域は、愛知県地殻内がやや高く、駿河湾 がやや低かった他は、ほぼ平常の活動であった。



領域 E では 2000 年終わりごろからの活動の低下が継続していた中、最近 90 日間で 6 回地震が発生した。8月 20 日には浜名湖の南で M3.2 の地震が発生している。領域Wは 2006 年以降、活動が低下した状況である。



図1 2007年8月に震度1以上を観測した地震 (図中の番号は、別紙1の表のNoに対応する地震)



図2 2007年8月に発生した M4.0 以上の地震 (図中の番号は、別紙1の表の No に対応する地震)

別紙1-参考2





図3 気象庁が震源を決定した日本付近の2007年8月の地震の震央分布 (M3.0以上の地震については白抜きで示す)

表1.過去1年間に震度1以上を観測した地震の最大震度別の月別回数 <平成18年(2006年)8月~平成19年(2007年)8月>

	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	計	記事
2006年 8 月	107	35	23	4	1					170	平成19年(2007年)新潟県中越沖地震の余震 (震度3:1回、震度2:5回、震度1:13回) 九十九里浜付近の地震活動 (震度5弱:1回、震度4:3回、 震度3:7回、震度2:7回、震度1:10回)
2007年 7 月	169	83	24	7			1	1		285	平成19年(2007年)新潟県中越沖地震とその余震 (震度6強:1回、震度6弱:1回、 震度4:5回、震度3:11回、 震度2:49回、震度1:71回) 伊豆大島近海(震度3:5回、 震度2:6回、震度1;25回)
2007年 6 月	126	47	13	9						195	大分県中部(震度4:3回、震度3:6回、 震度2:16回、震度1:39回) 平成19年(2007年)能登半島地震の余震 (震度4:1回、震度3:1回、 震度2:3回、震度1:6回)
2007年 5 月	92	37	10	3						142	平成19年(2007年)能登半島地震の余震 (震度4:1回、震度2:9回、 震度1:20回)
2007年4月	135	47	23	7		1				213	15日 三重県中部(震度 5 強) 平成19年(2007年)能登半島地震の余震 (震度 4 : 1 回、震度 3 : 7 回、 震度 2 : 20回、震度 1 : 66回)
2007年 3 月	280	105	35	8	3			1		432	平成19年(2007年)能登半島地震とその余震 (震度6強:1回、震度5弱:3回、 震度4:6回、震度3:25回、 震度2:74回、震度1:213回)
2007年2月	62	21	3	1						87	
2007年1月	63	28	10	1						102	新島・神津島近海 (震度 2 : 3 回、震度 1 :11回)
2006年12月	82	46	14	3						145	新島・神津島近海(震度 4 : 1 回、 震度 3 : 6 回、震度 2 :12回、 震度 1 :14回)
2006年11月	98	22	11	4						135	新島・神津島近海 (震度 3 : 2 回、震度 2 : 2 回、 震度 1 : 8 回)
2006年10月	73	23	5	1						102	
2006年9月	63	21	8	1						97 94	
2007年計	1034	403	141	40	4	1	1	2		1626	(平成19年1月~平成19年8月)
過去1年計	1351	515	182	49	4	1	1	2		2105	(平成18年9月~平成19年8月)
注) 「記事」 または震 地方公共[欄の「*」 2度1以上 団体等の	は関連の た を 10回じ 震度計に	ン地震で開 人上観測し よる震度	震度1以 した地震 の発表開	上を観測 活動につ 始年月	した地 りいて記 日。	震の回	 数。「 。	記事		主に震度5弱以上を観測した地震、
平成 9 (19 平成10(19	997)年11, 998)年6, 10,	月10日 月15日 月15日	^{秋田県、} 群馬県、 青森県、 宮崎県、	^埼 玉県、 福井県、 山形県、 鹿児島県	● てきしん しんしょう しんし しんしょう しんしん しんしん しんしん しんしん し	(<i>禅宗)</i> 、三重り 、石川り	□ 県) 、 県、島林 県、京都	新潟県 艮県、 都府、見	₩、変 愛媛県 兵庫県	^٤ 和宗、フ ! !、鳥取県	NM/IT、示民乐、和歌山乐、向山県、山山県 県、広島県、徳島県、熊本県、
平成11(19 平成12(20	999)年7, 000)年1, 3,	月21日 月12日 月28日	□京都、 「東京都、 栃木県、 滋賀県	長野県 千葉県、	, 岐阜県	、名古	室市(愛	愛知県)		
平成13(20	7 001)年3 7	月18日 月22日 月19日	富山県、 佐賀県 高知県	香川県、	大分県 5月10日 12月12日	日本	!県、川 」県	崎市 (神奈	川県)	
平成14(20	平成14(2002)年 3 月20日 岩手県、宮城県、神奈川県、福岡県、仙台市(宮城県) 7 月29日 北海道、長崎県 亚式15 (2002)年 3 日10日 沖煙県										

平成15(2003)年3月10日 沖縄県 平成16(2004)年5月26日 独立行政法人防災科学技術研究所

表2.日本及びその周辺におけるマグニチュード(M)別の月別地震回数 <平成18年(2006年)8月~平成19年(2007年)8月>

	M3.0	M4.0	M5.0	M6.0	M7.0	計	計	
	~ M3.9	~ M4.9	~ M5.9	~ M6.9	以上	M3.0以上	M4.0以上	記号
2007年 8 月	404	104	18	3		529	125	1日:沖縄本島北西沖(M6.1) 2日:サハリン西方沖(M6.4) 7日:沖縄本島北西沖(M6.3)
2007年7月	349	76	14	3		442	93	9日:千島列島東方(M6.2) 16日:平成19年(2007年)新潟県中越沖地震(M6.8) 16日:京都府沖(M6.7) 平成19年(2007年)新潟県中越沖地震の余震活動 (M3.0~3.9:88回、M4.0~4.9:12回、 M5.0~5.9:1回)
2007年6月	268	70	11			349	81	
2007年5月	264	70	11			345	81	平成19年(2007年)能登半島地震の余震活動 (M3.0~3.9:20回、M4.0~4.9:3回)
2007年4月	374	110	33	3		520	146	20日:宮古島北西沖(M6.3,M6.7,M6.1) 平成19年(2007年)能登半島地震の余震活動 (M3.0~3.9:55回、M4.0~4.9:8回)
2007年3月	474	106	13	3		596	122	8日:鳥島近海(M6.0) 9日:日本海北部(M6.2) 25日:平成19年(2007年)能登半島地震(M6.9) 平成19年(2007年)能登半島地震の余震活動 (M3.0~3.9:231回、M4.0~4.9:29回、 M5.0~5.9:3回)
2007年2月	233	57	9	1		300	67	17日:十勝沖(M6.2)
2007年1月	244	113	24	2	2	385	141	13日:千島列島東方(M8.2) 14日:千島列島東方(M6.5) 25日:台湾付近(M6.1) 31日:マリアナ諸島(M7.1)
2006年12月	274	107	26	2	1	410	136	8日:千島列島東方(M6.4) 26日:台湾付近(M6.9、M7.2)
2006年11月	254	76	42	3	1	376	122	15日:千島列島東方(M7.9、M6.6) 16日:千島列島東方(M6.1) 18日:奄美大島近海(M6.0)
2006年10月	254	75	19	7		355	101	1日:千島列島東方(M6.8、M6.6) 9日:台湾南方沖(M6.1) 11日:福島県沖(M6.0) 12日:与那国島近海(M6.2) 13日:千島列島東方(M6.3) 24日:鳥島近海(M6.8)
2006年9月	268	62	10	1		341	73	28日:千島列島東方(M6.0)
2006年8月	263	57	10	1		331	68	7日:父島近海(M6.2)
2007年計	2610	706	133	15	2	3466	856	(平成19年1月~平成19年7月)
過去1年計	3660	1026	230	28	4	4948	1288	(平成18年 8 月~平成19年 7 月)

注)日本及びその周辺:原則、北緯20~49度、東経120~154度の範囲。「記事」欄には主にM6.0以上の地震について記載した。

世界の主な地震

8月に世界で発生したマグニチュード(M)6.0以上または被害を伴った地震の震央分布を図1に示す。また、その震 源要素等を表1に示す。



2007年8月1日00時~8月31日24時(日本時間)

図 1 2007 年 8 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布 < 震源要素は米国地質調査所(USGS)発表の QUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による >

:数字は、表1の番号に対応する。

:マグニチュードはmb(実体波マグニチュード) Ms(表面波マグニチュード)のいずれか大きい値を用いて表示している。 ただし、mb,Ms どちらの値も求められていない場合はMw(モーメントマヴニチュード)の値を用いて表示している。 :日本付近で発生した地震については、震源要素及びマグニチュードは気象庁による。

表1 2007	年8月に世界で発生	したマグニチュー	ド 6.0 以上また	:は被害を伴った	こ地震の震源要素等
---------	-----------	----------	------------	----------	-----------

								深さ					備考
番号	月	日	時	緯度		経度		(km)	mb	Ms	Mw	震央地名	(被害状況など)
1	08月01	日00時	07分	\$27°	23.3	'E126°	42.7'	6	5.5	(6.1)	5.9	沖縄本島北西沖	
2	08月02	日02時	08分	\$15°	35.7	'E167°	40.8'	120	6.2		7.2	バヌアツ諸島	
3	08月02	日11時	37分	N47°	13.3	'E141°	43.4'	5	5.3	(6.4)	6.2	サハリン西方沖	死者 2 人、負傷者12人、建物被害など
4	08月02	日12時	21分	N51°	18.0	'W179°	58.0'	21	6.3		6.6	アリューシャン列島アンドリアノフ諸島	
5	08月03	日09時	41分	S62°	53.9	'E145°	24.9'	41	6.0	5.8	5.7	オーストラリア南方	
6	08月07	日09時	02分	N27°	20.8	'E126°	40.0'	5	5.5	(6.3)	5.9	沖縄本島北西沖	
7	08月09	日02時	04分	S 5°	57.4	'E107°	38.8'	280			7.4	インドネシア、ジャワ	TWI発表
8	08月16	日04時	15分	N35°	26.6	'E140°	31.8'	31	5.4	(5.3)		千葉県東方沖	負傷者1人
9	08月16	308時	40分	\$13°	24.4	'W 76°	36.7'	39		7.9	8.0	ペルー沿岸	死者514人以上、負傷者1,090人以上 建物被害多数 太平洋沿岸で数十cmの津波を観測
10	08月17	日12時	04分	S 5°	14.6	'E129°	29.8'	10	6.1	6.1		バンダ海	
11	08月18	日04時	14分	N35°	20.9	'E140°	21.6'	23	4.8	(4.8)		千葉県南部	負傷者1人
12	08月20	日22時	46分	N 6°	07.5	'E127°	25.1'	8	6.4	6.2		フィリピン諸島	

・震源要素、被害状況等は米国地質調査所(USGS)発表の QUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による(2007年9月4日 現在)。ただし、日本付近で発生した地震については震源要素及びマグニチュード(Ms の欄に括弧を付して記載)は気 象庁、被害状況は総務省消防庁による(2007年9月4日現在)。

・時分は震源時で日本時間[日本時間=協定世界時+9時間]である。

・Mw は USGS のモーメントマグ ニチュート である。

・TWI は、気象庁がインド洋沿岸諸国に暫定提供しているインド洋津波監視情報である(地震・火山月報(防災編)平成 17年5月号参照)。

平成19年(2007年)8月16日08時40分(日本時間)、ペルー沿岸でM7.9(米国地質調査所[以下USGSと表記]による表面波マグニチュード。Global CMT Project によるモーメントマグニチュードはMw8.0)の地震が発生した。この地震について、気象庁は同日09時04分、09時56分、12時34分に「日本への津波の有無については調査中」、18時56分に「日本の太平洋沿岸に弱い津波の可能性があり、 17日01時過ぎに津波注意報を発表する予定」の旨の「遠地地震の地震情報」(日本国内向け)を発表した。さらに、気象庁は17日01時04分に北海道から沖縄にかけての太平洋沿岸(ただし、東京湾、伊勢・三河湾、淡路島南部を除く)及び伊豆、小笠原諸島に津波注意報を発表し、01時20分に「津波予報を発表中」の旨の「遠地地震の地震情報」を発表した。

この地震により津波が発生し、太平洋の広い範囲で津波を観測した。日本でも 17 日明け方から、北 海道から沖縄の太平洋沿岸と伊豆、小笠原諸島で津波を観測し、その高さは最大で 0.2mであった。

その後、17日13時00分に、海外及び国内の検潮所での津波の観測状況などから、今後津波が大幅に 大きくなる可能性は少ないと判断し、全ての津波注意報を解除した。その際、気象庁は、注意報解除後 も半日程度は津波が継続する可能性が高いため、海での作業などに際して注意するよう呼びかけた。

この地震により、現地では死者 514 人以上、負傷者 1,090 人以上等の被害が発生した(USGS による)。 今回の地震の発震機構(Global CMT 解)は、東北東 - 西南西方向に圧力軸をもつ逆断層型で、沈み込 むナスカプレートと南米プレートの境界で発生した地震と考えられる。

ペルー沿岸では、2001 年 6 月 24 日にも M8.2 の地震が発生しており、日本を含む太平洋の広い範囲で 津波を観測した(日本国内では、根室市花咲で観測した 28cm が最大)。現地では死者 139 名など(「宇 津の被害地震の表」による)の大きな被害が生じた。





太平洋沿岸の津波観測値

津波の高さは、アメリカ西岸 / アラスカ津波警報センター(WC/ATWC)による。 は検潮所の位置、 色は観測した津波の高さを示す。図中の番号は、下図で波形を示した観測点の番号と対応。



太平洋沿岸で観測した津波の波形 太平洋沿岸の主な検潮所で観測した津波の波形。観測点名の番号は、上図の検潮所の番号に対応。

8月16日ペルー沿岸の地震に伴う津波の観測値

		第·	一波		最大の高	高さ			第	一波		最大の高	5
	観測点名	到達時刻	向き	高さ (m)	発現時刻	高さ (m)		観測点名	到達時刻	向き	高さ (m)	発現時刻	高さ (m)
1	根室市花咲	-	_	_	17日13:29	0.1	16	父島二見	17日07:25	押し	0.1	17日13:16	0.1
2	釧路	-	-	-	17日15:01	0.2	17	沼津市内浦	Ι	I	I	17日09:55	0.1
3	十勝港 *2	17日05:34	押し	微弱	17日15:03	0.2	18	尾鷲	17日06:11	押し	微弱	17日16:02	0.2
4	浦河 *2	-	-	-	17日15:29	0.2	19	熊野市遊木	17日06:39	押し	微弱	17日14:13	0.1
5	函館	-	-	-	17日12:04	0.1	20	那智勝浦町浦神	17日05:05	引き	微弱	17日11:41	0.2
6	むつ市関根浜	17日07:01	押し	微弱	17日15:07	0.1	21	串本町袋港	17日05:06	引き	微弱	17日16:56	0.1
7	八戸	17日06:35	押し	微弱	17日07:16	0.1	22	白浜町細野	-	-	-	17日12:34	0.1
8	宮古	17日05:23	押し	微弱	17日07:38	0.1	23	徳島由岐	-	-	-	17日16:10	0.1
9	釜石 *1	17日05:56	押し	微弱	17日06:56	0.1	24	土佐清水	17日07:08	押し	微弱	17日13:09	0.2
10	大船渡	-	-	-	17日12:23	0.1	25	日南市油津	17日07:13	押し	微弱	17日16:57	0.1
11	石巻市鮎川	-	-	-	17日08:56	0.1	26	南大隅町大泊 *1	-	Ι	-	17日10:19	0.1
12	いわき市小名浜	-	-	-	17日08:09	0.1	27	種子島熊野	-	Ι	-	17日17:08	0.1
13	銚子	17日05:50	引き	微弱	17日15:14	0.1	28	奄美市小湊	-	_	-	17日15:30	0.1
14	館山市布良	17日05:59	押し	微弱	17日17:18	0.1	29	奄美市名瀬 *1	17日07:38	押し	微弱	17日13:34	0.1
15	八丈島神湊 *1	17日06:56	押し	微弱	17日07:51	0.1	30	石垣島石垣港	17日08:15	押し	微弱	17日12:23	0.1

*1 は海上保安庁、*2 は国土交通省北海道開発局の観測点であることを示す。表中の値は暫定値であり、 後日変更されることがある。第一波の項目の "- "は、値が決定できないことを示す。



津波を観測した検潮所の位置 図中の番号は、上の表の観測点の番号に対応。



津波の測り方の模式



図 検潮所で観測した津波の波形比較

今回の地震(M7.9)と 2001 年 6 月 24 日の地震(M8.4)により日本に到達した津波の観測波形を示す。なお、浦河は北海道開発局、日向市細島 は宮崎県、宮古島平良は沖縄総合事務局の検潮所である。

別紙 3

<u>平成 19 年 8 月の主な火山活動</u>

【噴火した火山】

桜 島[比較的静穏な噴火活動(レベル2)]

4日に南岳山頂火口で爆発的噴火が発生した。

<u>諏訪之瀬島</u>[活発な状況(レベル3)]

31日に小規模な噴火が発生した。

【活発もしくはやや活発な状況の火山】

樽前山[やや活発な状況]

A火口は高温の状態が続いている。また、B噴気孔群も高温状態が続いていると推定される。

<u>三宅島</u>[やや活発な状況]

多量の火山ガスの放出が続いている。

硫黄島[やや活発な状況]

国土地理院の観測によると、島全体が大きく隆起する地殻変動は鈍化しながらも継続している。

薩摩硫黄島 [やや活発な状況 (レベル2)]

噴煙活動はやや活発で、火山性地震のやや多い状態が続いている。

口永良部島[やや活発な状況(レベル2)]

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながら、やや多い状態が続いている。

注1 本資料で示すレベルとは、現在12火山に導入している火山活動度レベルをいう。

注2 火山名に下線を引いた火山について、説明資料(火山活動解説資料)を配布。

注3 記号の意味

: 噴火した火山 : 活動が活発もしくはやや活発な状況の火山

: 静穏な状況であるが観測データ等に変化のあった火山

各火山の活動状況



過去1年間の火山活動の状況(やや活発もしくは活発な状況であった火山)

火山名				平成	18年				2	平成1	9年						
	~	щ	Ξ			9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
+		睠		ц	噴火												
<u>'</u>		כלנו		щ	活動												
趥		前		цц	噴火												
1.3		13.3		_	活動												
浅		間		山	<u> </u>												
				-	レヘル m曲 いい												
御		嶽		山	<u> 順火</u>		<u> </u>										
					沽動												
Ξ		宅		島	<u> </u>		<u> </u>										
					活動												
硫		黄		島	順火		<u> </u>										
					<u>活動</u>												
福	徳	岡	ノ	場	<u> </u>												
					<u> </u>											-	-
霧	島山	(新	燃岳)	<u>晴八</u> しベル												
_	<u> </u>				暗ル		<u> </u>										
蓩	島山		御鉢)	「良八」												
				-	喧火												
桜				晑	L^ IL												
.		$\tau \div$	++	<u> </u>	喧火												
隆	庠	魧	叀	局	11												
	Ŀ	白	立17	白	噴火												
Ľ	75	R	리	町	11												
È⊞⊽	≐논	4	油	白	噴火												
叫	初	~	/冼只	町	<i>ل</i> ^` ال												

噴火が発生した場合 で示す。レベル及び活動は、火山活動度レベルが導入されている火山 については火山活動度レベルを、それ以外の火山については活動評価をそれぞれ示す。

凡例

:火山活動が静穏な状況もしくはレベル1

:火山活動がやや活発な状況もしくはレベル2

:火山活動が活発な状況もしくはレベル3

:観測データがなく評価対象外

2007年8月の火山情報発表状況

火山情報の発表はありませんでした。

(1) 主な活火山(36火山)

	火山名	火山活動評価(8月31日現在)	最近の活動経過	
	雌阿寒岳	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏	
			平成 18 年 2 月 18 日 やや活発	
			3月 21 日 【噴火】活発	
ᅬᆈ			4月12日 やや活発	
걊			5月25日 静穏	
冯	十勝岳	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 やや活発	
坦			平成 19 年 2 月 16 日 静穏	
地士	樽前山	やや活発な状況	平成 17 年 6 月 21 日 やや活発	
71	倶多楽	静穏な状況	平成 18 年 2 月 28 日 静穏	
	有珠山	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏	
	北海道駒ケ岳	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏	
	恵山	静穏な状況	平成 17 年 11 月 2 日 静穏	
	岩手山	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏	
東	秋田駒ケ岳	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏	
北	栗駒山	静穏な状況	平成 18 年 11 月 14 日 静穏	
地	吾妻山	静穏な状況(レベル1)	平成17年2月1日 静穏	
方	安達太良山	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏	
	磐梯山	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏	
	那須岳	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏	
	草津白根山	静穏な状況(レベル1)	平成17年6月1日 静穏(レベル1)	
88	浅間山	静穏な状況(レベル1)	平成 15 年 11 月 4 日 やや活発(レベル	2)
医			平成16年7月20日 静穏(レベル1)	
凩			7月 31 日 やや活発(レベル	2)
•			9月 1日 【噴火】活発(レイ	ベル3)
111			平成 17 年 6 月 21 日 やや活発(レベル	2)
내+ 내+			平成18年9月22日 静穏(レベル1)	
地	新潟焼山	静穏な状況	平成 18 年 2 月 28 日 静穏	
ノJ 乃	御嶽山	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏	
71			平成 19 年 1 月 19 日 やや活発	
田			平成 19 年 5 月 25 日 静穏	
	白山	静穏な状況	平成 17 年 11 月 2 日 静穏	
•	富士山	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏	
小	箱根山	静穏な状況	平成 18 年 11 月 14 日 静穏	
祭	伊豆東部火山群	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏	
原	伊豆大島	静穏な状況(レベル1)	平成 15 年 11 月 4 日 静穏(レベル1)	
諸	三宅島	やや活発な状況	平成 17 年 6 月 21 日 やや活発	
島	八丈島	静穏な状況	平成 18 年 2 月 28 日 静穏	
	硫黄島	やや活発な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏	
			平成19年 1月9日 やや活発	
	福徳岡ノ場	やや活発な状況	平成 17 年 11 月 2 日 やや活発	

	火山名	火山活動評価(8月31日現在)		最近の活動経過
	九重山	静穏な状況(レベル1)	平成 17 年 2 月 1 日	静穏(レベル1)
	阿蘇山	静穏な状況(レベル1)	平成 15 年 11 月 4 日	やや活発(レベル2)
			平成 16 年 1 月 14 日	【噴火 (土砂噴出)】
				活発(レベル3)
			2月13日	やや活発(レベル2)
			平成 17 年 4 月 14 日	【噴火 (土砂噴出)】
				活発(レベル3)
			5月13日	やや活発(レベル2)
			平成 18 年 1 月 20 日	静穏(レベル1)
			3月24日	やや活発(レベル2)
			8月4日	静穏(レベル1)
+	雲仙岳	静穏な状況(レベル1)	平成 15 年 11 月 4 日	静穏(レベル1)
ノし 水い	霧島山	静穏な状況(レベル1)	平成 17 年 2 月 1 日	静穏(レベル1)
911 †#1	(新燃岳)		平成 18 年 2 月 1 日	やや活発(レベル2)
地古			5月22日	静穏(レベル1)
			平成 18 年 12 月 3 日	やや活発(レベル2)
啩			平成 19 年 1月9日	静穏(レベル1)
市	霧島山	静穏な状況(レベル1)	平成 17 年 2 月 1 日	やや活発(レベル2)
山諸	(御鉢)		平成 18 年 5 月 22 日	静穏(レベル1)
自			平成 19 年 2 月 5 日	やや活発(レベル2)
щ			平成 19 年 3 月 5 日	静穏(レベル1)
	桜島	比較的静穏な噴火活動	平成 15 年 11 月 4 日	比較的静穏な噴火活動
		(レベル2)		(レベル2)
			平成 18 年 6 月 12 日	【昭和火口から噴火】
				活発(レベル3)
			8月18日	比較的静穏な噴火活動
				(レベル2)
	薩摩硫黄島	やや活発な状況(レベル2)	平成 17 年 2 月 1 日	やや活発(レベル2)
	口永良部島	やや活発な状況(レベル2)	平成 17 年 2 月 1 日	やや活発(レベル2)
	諏訪之瀬島	活発な状況(レベル3)	平成 17 年 2 月 1 日	【噴火継続】
				活発(レベル3)
	硫黄鳥島	静穏な状況	平成 19 年 2 月 16 日	静穏

注)最近の活動経過欄は、火山活動度レベル導入火山()にはレベル導入日からの、それ以外の火山() には第 101 回火山噴火予知連絡会(平成 17 年 6 月 21 日開催)以降最初に評価を明記した火山噴火予知 連絡会開催日からの活動経過を示している。

(2) その他の活火山(49火山)

以下の活火山では、いずれも火山活動は静穏な状況である。

	火山的
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、摩周、アトサヌプリ、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセ コ、渡島大島
東北地方	恐山、岩木山、八甲田山、十和田、秋田焼山、八幡平、鳥海山、鳴子、肘折、蔵王山、沼沢、 燧ヶ岳
関東・中部地方	高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、焼岳、アカンダナ山、乗
及び伊豆・小笠原諸島	鞍岳、利島、新島、神津島、御蔵島、青ヶ島
中国・九州地方	三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・
及び南西諸島	山川、開聞岳、口之島、中之島

(補足)評価対象外の活火山(23火山)

無人島:伊豆鳥島、西之島

岩礁あるいは岩:ベヨネース列岩、須美寿島、孀婦岩

海底火山:海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福徳堆、南日吉海山、日光海山、西表島北北東海底火山

北方四島 : 茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、

羅臼山、泊山

世界の主な火山活動

平成19年(2007年)8月に噴火したと報告された主な火山(日本を除く)は下図のとおりである。 今期間、顕著な噴火の報告はなかった。

(以上、米国スミソニアン自然史博物館のGVP(Global Volcanism Program)による。日付は全て現地時間。火山名の 読み方は、原則として気象庁:「火山観測指針(参考編)」による。)

